



浪江町議会議長
佐々木 恵 寿



浪江町長
吉 田 数 博

新年のご挨拶

町議会を代表しまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さまにおかれましては輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃から皆さまの町議会への深いご理解と、議会活動に対する温かいご支援・ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。町民の声をしっかりと受け止め、その責任の重さを自覚し、皆さまの協力を賜りながら、微力ではありますが、浪江町の復興、そして、「持続可能なまちづくり」に全力で取り組んでいく所存です。

昨年は、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大による影響で、新しい生活様式の実践などによる様々な制限がかかる中、いつもとは違った環境の下での生活を強いられ、皆さまも、様々な面で苦労された1年だったのではないかと感じています。既に長期化しており、今後を見通すのも難しい状況ではありますが、再びみんなで集い、語ることができるような普通の生活が一日

でも早く戻ることを願い、この局面を、みんなで乗り越えていきたいと思います。

さて、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故からまもなく10年を迎えます。議会としては町民の皆さまがどのようなことを感じ、何を求めているのかを意識し、町民の声を、町はもちろん国や県などにもお届けするよう努めています。残念ながら昨年は、議会として、例年実施していた議会報告会のように、皆さまの声を直接お聴きする機会を設けることはできませんでした。議会定例会、臨時会、委員会などを通して、町の課題や、その解決策などについて町と議論を重ねてきました。本年においても、議会がすべきことを実践し、町民に求められていることを一つでも多く実現できるよう、議員一同、精一杯努力する所存です。

行政機関と議会では役割が異なり、政策の審議、議決、監視を担当する議会の仕事は、成果や実績が見えにくく、町

令和3年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

東日本大震災と原発事故から10年となる節目の年を迎えました。

いまだ避難先にて、不自由な避難生活を強いられている皆さんに、心からお見舞い申し上げます。

昨年を振り返って

昨年は「町のこし」から「持続可能なまちづくり」への転換の年となり、新しい町を象徴する施設の完成が続きまし

3月に世界最大級の水素製造拠点（福島水素エネルギー研究フィールド）が完成し、4月には請戸漁港で9年ぶりに競りが再開され、町内でも新鮮な魚介類を買うことができるようになりました。

また、8月の「道の駅なみえ」プレオープン、10月の請戸住宅団地完成と続き、町内に人が住み、買物をするという当たり前の日常が戻りつつあります。

今年の3月には道の駅がグランドオープンとなり、買物環境はさらに充実するものと期待しています。

「持続可能なまちづくり」に向けて

町は現在、急速な人口減少と少子高齢化に直面しており、復興事業の推進とともに将来も安心して暮らせる「持続可能なまちづくり」に取り組んでいます。

多くの課題がある中、駅前など中心市街地の再整備や、ふれあいセンターなみえ跡地に令和4年度の供用開始を目指すして建設を予定している介護施設、公民館や図書館などの機能を併せ持った施設やアシレチック施設などの建設は、特に重要な事業と位置付けています。

また、生業を再生しふさぐとの原風景を取り戻すため、営農支援にも力を入れており、今秋の利用開始を目指す、苧宿地区、棚塩地区の2か所に乾燥調製貯蔵施設（カントリーエレベーター）を建設しています。

さらに、震災の記憶と記録を保存し、町外からの人の交流を呼び起こす震災遺構「請戸小学校」や、「福島いこいの村なみえ」の管理棟（レストラン、事務所など）の工事も順調に進んでおり、夏頃には「福

島いこいの村なみえ」で食事提供ができるようになります。

水素社会の先駆けとして

町は、復興計画に基づき再生可能エネルギーの「地産地消」に取り組んでいます。中でも、昨年完成した「福島水素エネルギー研究フィールド」で作られる「水素」は、太陽光で発電した電気を利用したクリーンエネルギーであり、政府が進める「脱炭素社会」実現の切り札として、燃料電池や水素自動車などへの利用が期待されています。

町内では既に水素利用に関する実証実験も行われており、これから「水素の町」として、水素エネルギーの普及・拡大をけん引してまいります。

帰還困難区域と処理水について

帰還困難区域内の3か所（室原・末森・津島地区）に設定された特定復興再生拠点では、令和5年の避難指示解除に向け、除染やインフラ整備が行われています。しかし、特定復興再生拠点以外の地域に関しては、いまだ避難指示解除に向けた方針が何も示されておられません。これまでも

国に対して何度も要望してきたことではありますが、具体的な時間軸を早急に示すよう強く要望していきます。

また、福島第一原発のトリチウムを含んだ処理水の処分方法についても、決して町の復興に水を差すことが無いよう、国に責任ある対応を求めてまいります。

ふるさと浪江町

まちづくりに近道は無く、一つずつ課題に取り組んでいくしかありません。

私は、町民の皆さんが「帰ってきたくなる町」を作るために、これからも「粉骨砕身」に取り組んでまいりますので、いつの日かふるさとに帰ってきてください。

結びになりますが、昨年から「新型コロナウイルス感染症」の脅威が続いています。どうぞ健康に留意していただき、今年一年が皆さんにとって素晴らしい年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



大浦 泰夫	石井 悠子	高野 武	半谷 正夫	紺野 則夫	佐々木 勇治	平本 佳司	山崎 博文	渡邊 泰彦	松田 孝司	山本 幸一郎	泉田 重章	紺野 榮重	佐藤 文子	馬場 績
-------	-------	------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	------

浪江町議会議員
(議席番号順)